

NPO 法人

甲子園浜

海浜の自然環境を守る会ニュース

第65号 2020年12月15日

663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

<http://www.npo-koshienhama.com/>

海からの恩恵

神戸女学院大学非常勤講師 阪口正樹

忙しい娑婆のことどもを終えて、一丁目浜の入り口の防潮堤に立つと素晴らしい景色が現れる。憩いのある時である。よくぞ、この浜を残してくれたといつも思う。そして、このままであって欲しいと思う気持ちと、私はこの浜をどのように表現すればよいのかと思う気持ちをもつ。

甲子園浜（鳴尾浜）は大阪湾の奥にある穏やかな浜であり、古^{いにしへ}から漁業も盛んで「手々かむ鯛」も獲れる豊かな海であった。江戸時代には、この地域の畑では綿が栽培され鯛の干したものはその肥料として利用されていた。1905年、大阪・神戸間を開通させた阪神電鉄は利用者増を図るため、甲子園球場、阪神パークなどを開いた。かつての阪神パークの跡はコンクリート片の散乱した場所として残っている。今、幼稚園児・小学生が大挙して遊びに来るのは、このコンクリート瓦礫の間に棲むカニ・ヤドカリや小魚を目当てにしているからだろう。西宮市民の遊び場となっている。



立派な砂浜に復活した。鵜が大挙して餌を摂っているのを見ると、もう一度この浜で地引網を曳けるのでは

地盤沈下で狭くなった砂浜だが昭和40年ごろまで漁業がおこなわれていた。防潮堤も改造され、痩せていた浜は阪神大震災の前と後に武庫川の砂で養浜され幅50mの

ないかと思う。

20数年を経た今、台風による波が砂を運び砂を置き去り、そして砂浜の形を造り変えた。今では二丁目の入り口付近が80m余りに突出している。台風や梅雨の大雨は、海から流木・植物・プラスチックゴミなどを運んでくる。海が荒れた次の日に来ると、ゴミの中にトカゲやカエルを見ることがある。一週間ほど経つと、植物の芽生えが見つかる。そして、わずかな生き物だけがこの浜に生き残ることができる。砂浜は厳しい環境だ。

大阪湾の浜辺30カ所の調査結果を見ると、ハマヒルガオはすべての浜で観察できるが、コウボウシバは17カ所の浜にしか観察できない。甲子園浜ではその両方が観察できる。また、ハマゴウは8カ所目である。生えていて当然と思うコウボウシバ・ハマゴウであるが、実



ハマゴウの花

はそうでもないのだ。かつて香櫨園浜ではハマナタマメが生えていた。種子が海から運ばれてきたのだ。甲子園浜にも種子が運ばれてくるであろう。楽しみである。

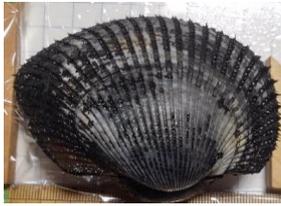
この海からの恩恵は、漁業だけではなく、市民の憩いの場・遊びの場・海を学ぶ場に及ぶ。さらには、今度はどんな贈り物が運ばれてくるのかとわくわくさせてくれる。よくぞ、この浜を残してくれたと思う。皆様に感謝です。願わくば、人の手を加えず自然が味わえる贅沢な場所として甲子園浜を残していただきたい。

♪ いいもの見つけ ♪

サトウガイ

9月4日12時半頃、いつもの海水調査を終え、波打ち際を歩いて戻っているときのことです。そこは、屏風岩から西へ50mくらい、波打ち際から50cmくらいの海中です。今、海中に何かあったな・・・と2~3歩後戻りし拾い上げました。甲子園浜ではよく見かけるサルボウガイだと思いましたが今まで見たことない大きさです。貝は閉じていましたが少し臭いがありました。持ち帰って計測しました。

計測結果。



殻幅 8.7cm



殻高 6.9cm



殻厚み 5.0cm

翌日、貝は口を開けました。しばらくは水換えをしながら、貝の臭さを取りました。



生きていた証拠

9月19日、貝類館主催甲子園浜観察会の時渡辺哲也先生に貝殻を見ていただきました。すると、「1、2、3・・・38」と、表面の筋(放射肋)を数えて「サルボウガイではなく、サトウガイという種類

のようです。水深10から50メートルのやや外洋の内湾にすむとあります。少なくとも甲子園浜のあの浅い場所にはいないはずだ。水産物としてもほとんど流通していないはずだ。どこからきたのか、不思議ですね」と教えていただきました。これまでも「小さいサトウガイ」をサルボウガイと見間違っていたかもしれません。ちょっとでも「？」と感じたものは、放射肋を数えて、またサトウガイを見つけない。 向山裕子

活動報告

- 9月13日 海浜清掃 可燃ゴミ260kg、不燃ゴミ40kg
68名 (協力:ヤマサ環境エンジニアリング)
- 9月26日 阪神生物学会植生調査
- 10月25日 西宮市立貝類館による甲子園浜セミナー
「アンモナイトとオウムガイ」
- 11月1日 伊藤ハム(株)合同クリーンアップ
可燃ゴミ260kg、不燃ゴミ30kg、121名
(協力:ヤマサ環境エンジニアリング)
- 11月8日 西宮市立貝類館による甲子園浜セミナー
「ダンゴムシとその仲間」

活動予定

1月30日(土) 連凧を作って揚げよう

2月 冬の鳥観察会

『兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック

2020(植物・植物群落)』に、甲子園浜が御前浜とともに、海浜植物群落Cランクで掲載されています。ハマヒルガオ群落、コウボウシバ群落を含むとの備考つきです。Cランクとは、植物群落及び個体群の破壊・衰退要因となる人為的影響・生育環境の変化、生物被害等により今後消滅の危険性が高まる恐れのあるものや、規模的、質的に優れ貴重性の程度がやや高いものです。

ほかにCランクのオニシバ、EWランク*のハマビシ、Aランクのハマボウが甲子園浜には生育しています。(EWランク:野生絶滅)



甲子園浜自然環境センター1階ミニミニ水族館 円形水槽リニューアル

イシダイ、ウマズラハギ、カワハギ、コショウダイ、セトダイが新しく入居しました。これからも増えたり、入れ替わったりするかもしれません。長く親しまれてきたアリゲーターガーは、引っ越した先で元気にしているそうです。

3階の学習ルームの水槽では、大きなメジナが泳いでいます。名前に違わず泥の上をぴよこぴよこ跳ねるトビハゼや人懐こいカメが人気です。